kintone Enterprise Circle

kintone ガバナンスガイドライン

第二版

2026年10月 サイボウズ株式会社

kintone

本ガイドラインの作成背景と目的・考慮すべきポイント

背景と目的

- kintoneはマウス操作で簡単にアプリを作成できるノーコード/ローコード開発ツールで「現場が主体となってアプリを作成できる」という特徴があります。その特性を生かし、業務で必要なシステムを業務担当者自身で開発していくことができます。
- 一方で**kintoneを利用する部門や対象業務が多岐にわたる**場合は、**アプリの品質確保やリスク管理のためにどうガバナンスを構築するか**は避けて通れないテーマとなります。
- 本ガイドラインを参照いただくことで、自社に合ったガバナンスを構築したうえで、kintoneを安心、安全に利用し、持続可能な形で業務改善を行っていただけると幸いです。

ガバナンス構築時の考慮すべきポイント

- kintoneの利用領域や利用者の拡大とともにリスクに応じたガバナンスの構築が必要となってきますが、業務部門が現場で自らシステム開発できることでのスピード感や柔軟性など、**kintoneが持つ特性とのバランスを考慮し**検討を進めることがkintoneを安全、安心に活用するポイントとなります。
- そのため、画一的にガバナンスを適用するのではなく、自社の利用状況や方針などの特性に応じ、**「何を守らなければならないのか」、「kintone利用においてどのようなリスクが生じるのか」**について十分に検討しガバナンス構築を進めることが必要になります。

本ガイドラインの作成背景と目的・考慮すべきポイント

作成背景やガバナンスガイドライン関連資料については以下の動画でご紹介しています

https://youtu.be/ObVPU3R8XxI

01

kintoneガバナンス方針策定のポイント

ガバナンス構築手順

kintoneガバナンス構築では「kintoneの役割、利用戦略、利用パターンに伴うリスク」を想定した検討が必要です。
下図では、導入ステップに合わせたガバナンス構築の検討ポイントを表しています。

方針検討　何のために・誰がどんなアプリを作成するのか

kintoneの理解 ▶ 利用戦略（方針）の検討 ▶ ガバナンス方針策定

ルールの作成　安全かつ効果的な運用に必要なことは何か

検討ポイントの理解 ▶ 自社に合ったルールの作成

日々の運用・改善

ルールの運用　ルール順守状況の確認　改善

方針の見直し

ルールの見直し

ガバナンス構築手順

「戦略」「組織」「教育」「プロセス」の4つの領域を組み合わせて検討することが重要です。特定の領域に偏っていたり、欠けていたりする場合、ガバナンスの効果を十分に得られないことも考えられます。

それぞれに求められる要素は利用企業によって異なります。以降の「利用戦略（方針）の検討」および「kintoneガバナンス方針策定」ステップにおいて、これらの領域を意識しながら検討を進めることがポイントになります。

kintone戦略	kintoneに対する理解 kintone導入目的／活用方針	kintoneアプリにおけるリスク認識
組織	kintone推進における役割・責任 kintone導入における管理体制	kintone業務部門の役割・責任
教育	kintone導入目的・方針の浸透・定着化 kintone導入にかかわるリスク認識、コンプライアンス意識の醸成	利用領域に応じたアプリ作成者の育成 デジタル人材の育成
プロセス	kintoneアプリのリスク評価・管理プロセス kintoneアプリの作成・変更／運用プロセス kintoneアプリにかかわるデータへのアクセス	情報漏洩・各種法令・内部統制・コンプライアンス対応 リスク管理状況や導入効果のモニタリング

02

kintoneの理解

kintoneの理解

実運用に適したガバナンスを構築するには、ツールの特性や機能・仕様を理解することが重要です。
情報収集や実操作によって、kintoneの機能や特性をご確認ください。

情報収集

- WEBサイト等からの情報収集
- マニュアルからの情報収集
- 外部コミュニティからの情報収集
- 内部統制構築例

実操作確認

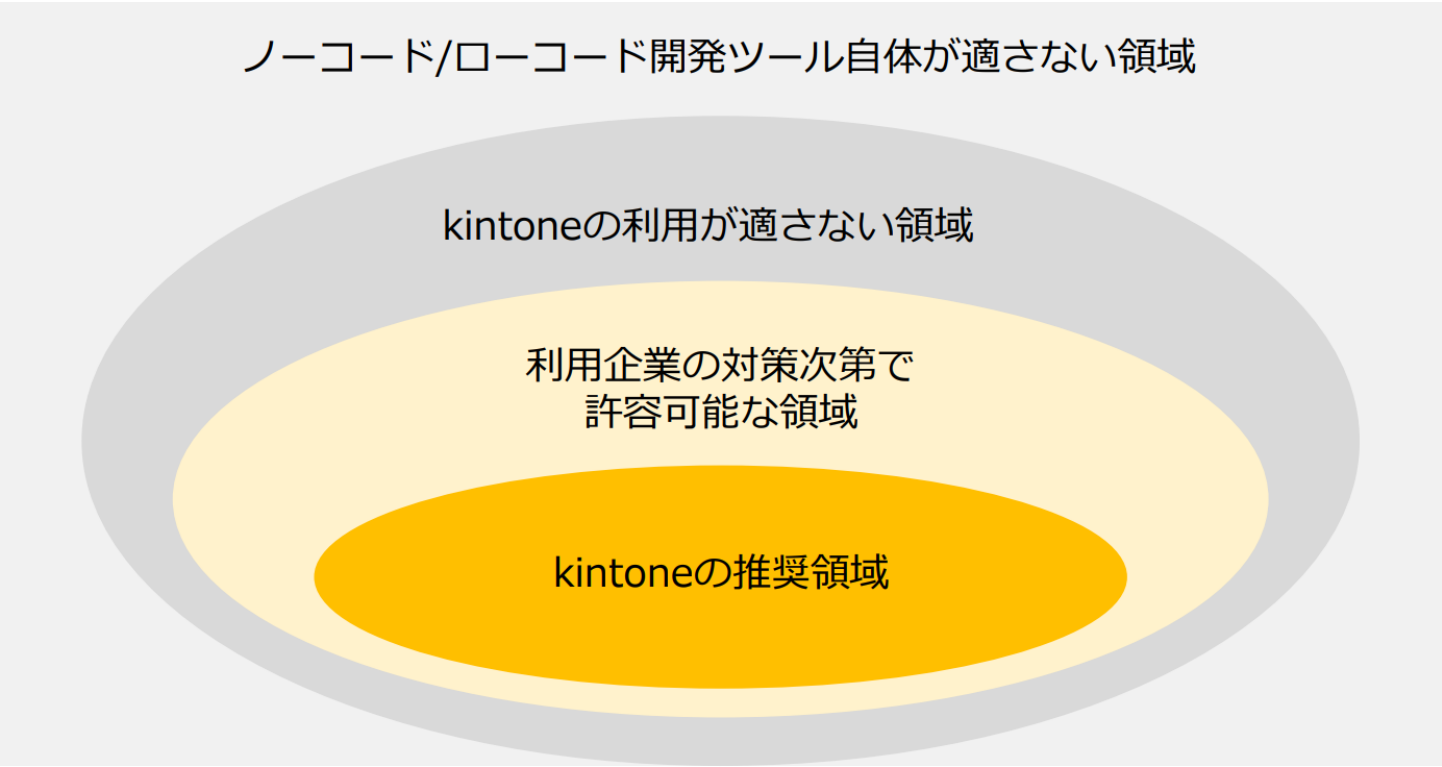
- 少人数による機能確認
- コントロールツールの実効性確認
- サンプルツールの作成

kintoneの理解

機能や特性を知ると、利用する領域の向き／不向きも見えてきます。

ただし、運用方法などによって適用できる範囲は変化するため、収集した情報と自社の方針・事情の両方を考慮して、利用領域を検討していくことが重要です。

また、**社内で利用している他のツール**※との使い分けを意識した理解も重要です。



※他のツール例：

・基幹システム
・専門業務システム
・グループウェア
・ローコードツール
・kintone以外のノーコードツール

etc

03

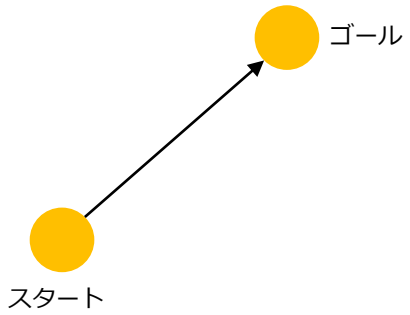
利用戦略（方針）の検討

kintoneの利用展開方法を考える

kintoneの機能や特性を理解した後、kintoneの展開方式を検討します。
一般的に、ツールの展開方式は**「ターゲット固定方式」**と**「ムービングターゲット方式」**の2種類あります。

ターゲット固定方式

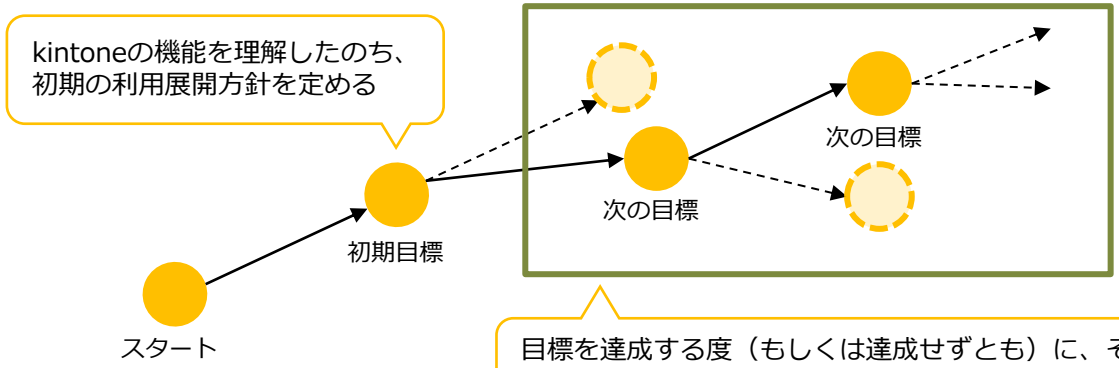
最終ゴールを定め、一気に展開する方式



利用企業の最終的なあるべき姿（目的）を初期に定めて推進する

ムービングターゲット方式

直近（1～2年）で達成する目標を定め、定期的に目標を見直す方式



目標を達成する度（もしくは達成せずとも）に、それまでの結果に応じて、利用する業務領域や利用方法をアップデートしていく

kintoneは効果測定しながら利用を広げていくのが有効なツールであるため、
「ムービングターゲット方式」のように適宜アップデートしていくことが重要になります。

kintone利用戦略の考え方のポイント

kintoneの利用戦略を考える上では、全社のIT戦略と照らし合わせながら、
kintoneの利用領域を定めること、kintoneの担い手となる人材について検討することが重要なポイントとなります。

起点
全社IT戦略
＋ kintoneが得意な領域

利用領域
何で使うか
- 業務の影響範囲
- 業務の重要度
- 利用可能とするデータ

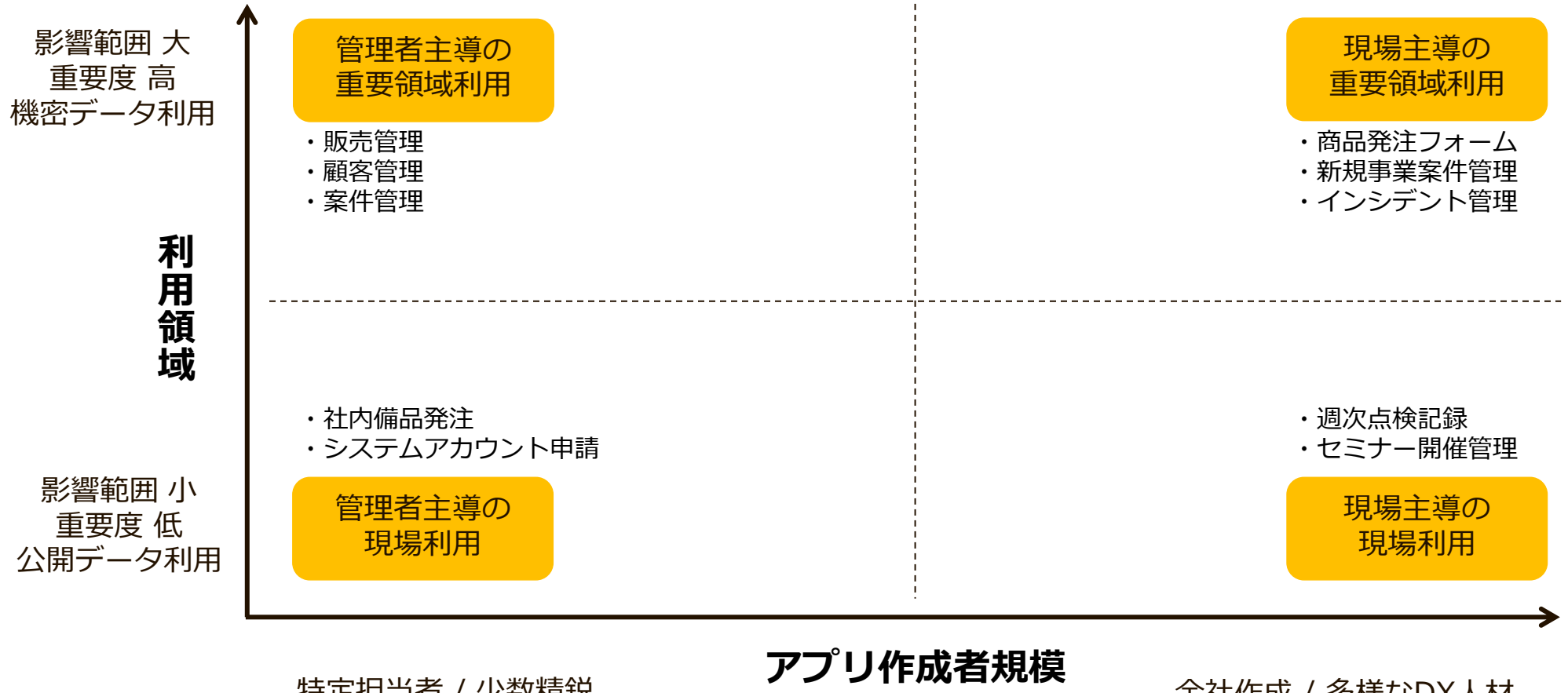
人材
誰が担うか
- 利用領域に合わせた人材像の検討
- 利用を許可する組織や人材を定義
- 利用領域に合わせた人材育成方法

次のステップ
ガバナンス方針
ルールづくり

「何で使うか」と「誰が担うか」が、kintone利用戦略の2つの軸

利用領域×アプリ作成者規模の検討

利用目的をふまえて**「何で使うか（利用領域）×誰が担うか（アプリ作成者規模）」**を整理します。
【自社の現在地と、今後目指す位置】がどこにあたるかを、下図で確認しましょう。
両者を広げるうえでは考慮すべき点もあるため、利用目的と考慮点の両方をふまえて検討します。

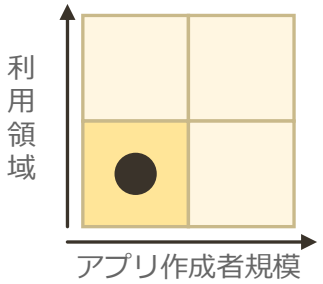


展開フェーズごとの位置づけ

試行導入から始め、作成者を広げる（横）／扱う領域を広げる（縦）ことで利用を拡大していきます。
また、自社がどのポジションにいるのかを把握するだけでなく、今後どのようなポジションに進みたいのかを検討することで、ガバナンスのあるべき姿を理解できるため、ガバナンス体制やアプリの運用ルールなど、適切なガバナンス構築に繋がります。

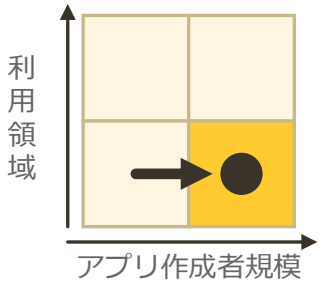
① 試行導入フェーズ

少数の担当者・限定領域で開始



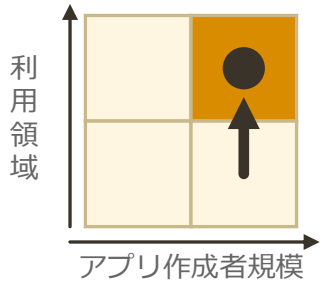
② 展開フェーズ

作成者を全社へ広げる（横に移動）



③ 領域拡大フェーズ

扱う業務・データを広げる（縦に移動）

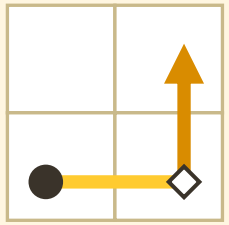


進み方はひとつではありません

順番は固定ではなく、領域拡大を先に進めたり、ジグザグに進んだりするケースも多くあります。

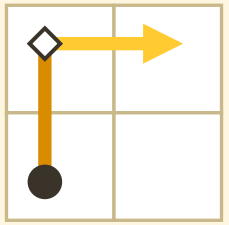
◇ の曲がり角＝フェーズが切り替わるタイミング。ここでガバナンス体制や運用ルールを見直しましょう。

例1：展開→領域拡大



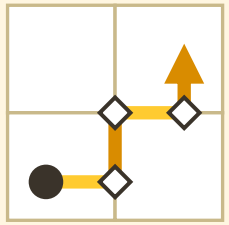
まず作成者を広げてから、扱う領域を広げる

例2：領域拡大→展開



少数精鋭で重要領域を扱ってから、全社に広げる

例3：ジグザグに少しずつ

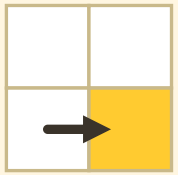


作成者と領域を交互に少しずつ広げる

＝展開（横に移動）　＝領域拡大（縦に移動）　◇＝見直しのタイミング

フェーズごとのリスクとガバナンス検討ポイント

展開フェーズ・領域拡大フェーズで考慮すべきリスクと、ガバナンス検討ポイントの例です。
自社の戦略やアプリの特性によってリスクは異なります。
kintoneの利用状況に応じて「組織」「人材」「プロセス」の最適なガバナンスを検討してください。

フェーズ	考慮すべき主なリスク		ガバナンス検討ポイント
② 展開フェーズ  作成者を全社へ広げる	**シャドーIT（野良アプリ）** アプリ作成者が多様化するため、作成されたアプリが管理されないまま放置される、または意図しないアプリが作成されるおそれがある。	**スキル不足による作成ミス** ITスキルやkintoneへの理解が不足した作成者が増えることで、処理ロジックが不正確なアプリが作成されるおそれがある。	• **全社的な管理体制** • **全社的な教育活動、段階的な教育制度の設計と作成許可** • **アプリ一覧管理、モニタリングの高度化**
③ 領域拡大フェーズ 扱う業務・データを広げる	**データ漏洩** リスクの高い情報を扱うことで、不適切なアクセス権の設定などにより、データの機密性が侵害されるおそれがある。	**不正確な処理** リスクの高いプロセスを扱うため、作成上のミスや不適切なアクセス権の設定などにより、処理の完全性・可用性が侵害されるおそれがある。	• **リスクに応じた作成権限、チェック体制** • **アプリ作成・変更時の第三者確認** • **データガバナンスに関連する対策**

「利用領域」に関する検討事項

軸の1つである「利用領域」は、該当業務の影響範囲・重要度・利用データの観点で検討します。
検討事項を直近で考慮しきれない場合は、利用をスモールスタートにする方法もあります。

	拡大する場合のイメージ	拡大によって発生しうるシーン	検討事項の例
影響範囲	より関係者が多い業務や他システム連携がある業務など、より影響範囲が広い業務で利用する **例：交通費申請**	• アプリ不具合発生時などの影響範囲が広くなる • 関係者が増えてプロマネや社内調整の難易度が上がる • 同時編集や同時アクセスの可能性が高まる • 他システムとデータのやり取りがあるため、アプリ構成での考慮が必要	• **アプリ作成者/管理者の限定** • **パートナーなど有識者への相談** • **担当者や問い合わせ窓口の明確化** • **業務の複雑さに耐えうるアプリ構成の検討** • **プロマネスキルの育成**
重要度	組織にとってより重要度の高い業務で利用する **例：販売管理**	• アプリ不具合発生時などに業務がクリティカルな影響を受ける • 24時間365日の対応が必要な可能性がある ※kintoneのサービス提供はメンテナンス時間を除きます。メンテナンスについてはヘルプやSLOをご確認ください。	• **アプリ作成者/管理者の限定** • **パートナーなど有識者への相談** • **kintoneのメンテナンス時間や機能、仕様が要件に合っているかの確認**
利用データ	より機密性の高いデータを利用する **例：契約者情報管理**	• データ漏洩時の損失が大きい	• **アクセス権の適切な設定** • **定期的なアクセス権見直し** • **取扱データを管理部門で把握できる仕組みづくり**

「人材」に関する検討事項

定めた利用領域によって、必要となる人材のレベルは異なります。
どのレベルの人材が必要かを考え、各レベルに応じた育成・仕組みを用意することが重要です。
下表を参考に、自社に必要な人材と育成方法を検討しましょう。

レベル	人材像	必要な育成・仕組み
上級者	**kintoneの特性を熟知し、リスクに応じたアプリ作成ができる人材**	• アプリの可用性・完全性が求められる領域は作成難易度が上がるため、作成を上級者に限定する
中級者	**kintoneの機能を一定程度理解し、幅広い活用を検討できる人材**	• 機能を知っているがゆえに、高リスク領域を扱ってしまう可能性がある • 経験に合わせ、リスクも踏まえて上級者へ進む育成プランを策定する • 高リスク領域のアプリ作成を制限する仕組みを用意する
初級者	**kintoneで初めてシステム開発をするまたは開発知識を持たない一般利用者**	• 業務改善のため広く利用を開放する一方、人数が多いため計画的な人員配置を検討する • 高リスク領域のアプリ作成に踏み込まない仕組みを用意する

04

ガバナンス構築ブック＆ワークシート

ガバナンス構築ブック＆ワークシート

ガバナンスを具体的に構築するために

本資料（ガバナンス構築ガイドライン）では、kintoneガバナンスの考え方や検討のポイントを解説しています。
その内容を自社に当てはめ、具体的な形にしていくためのツールとして、
「ガバナンス構築ブック＆ワークシート」をご用意しております。
本資料とあわせて、必要に応じてご活用ください。

ガバナンス構築ブック＆ワークシートでできること

- ガバナンス構築に必要な検討項目を網羅的に把握する
- 自社の現状と照らし合わせ、優先的に整備すべき領域を特定する
- 方針・ルール・運用フローを、ワークシートに沿って順番に言語化する

ガバナンス構築ブック はこちら

ガバナンス構築ワークシート はこちら

05

改訂・本資料のご利用について

改訂理由・改訂履歴

改訂の背景

具体的にガバナンス構築を進めるための『ガバナンス構築ブック』『ガバナンス構築ワークシート』の制作にあたり、ガイドラインの内容を改訂しました。

改訂履歴

版	改訂日	改訂内容
1.0	2022/06	ユーザーコミュニティkintone Enterprise Circle（EPC）の議論を元に初版発行
2.0	2026/10	• 旧3章・旧4章（構築のポイント／リスクおよびコントロール例）を「ガバナンス構築ブック」へ移管 • 章構成を見直し、「kintoneの理解」「利用戦略（方針）の検討」を独立した章として再編 • 「ガバナンス構築ブック＆ワークシート」「改訂について」の章を新設 • デザインを刷新

本資料のご利用について

ご利用条件

© Cybozu, Inc.

自己の使用範囲において私用・商用問わず、本資料を利用することができます。
また、本資料を利用する際には必ず出典をご記載ください。
（出典記載例：サイボウズ株式会社「kintoneガバナンス構築ガイドライン」）

お問い合わせ先

サイボウズ株式会社
kintone Enterprise Circle 運営担当
kintone-ep@cybozu.co.jp

kintone